

第 9 期 総 会 資 料

目 次

1	平成 2 1 年度	事業報告	1
	第 1 部	事業概要	1
	第 2 部	会計報告及び会計監査報告	35
2	平成 2 2 年度	事業計画(案)	40
3	平成 2 2 年度	予算(案)	56
4	平成 2 2 年度	役員選任	57
5	「システム監査これからの 10 年」提言・要望事項 への対応状況と今後の取組み計画		58



特定非営利活動法人
日本システム監査人協会

平成21年度 事業報告

第1部 事業概要

I. 本部

1. 全般概要

(1) 会員の状況（平成21年12月末現在）

正会員・個人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・973名

正会員・団体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36社

入会申込は個人63名、法人3社と順調であるが、退職などによる退会者が上回り、今年度も個人会員1000名を維持できなかった。

なお、地方会員の組織として北海道・東北・中部・北信越・近畿・中四国・九州の7支部がある。また東京都中央区に本部の事務所を置いてある。

(2) 理事会等の本部活動状況

理事会の活動

開催 1/8, 2/5, 3/12, 4/9, 5/14, 6/11, 7/9, 9/10, 10/8, 11/12, 12/10

理事会は、当協会の活動の原点であり、活動の諸案件が毎回活発に議論され審議・決定されてきた。その議事録は会員メーリングリストで報告し、会報に掲載したとおりである。

研究会等の活動（詳細は別項）

月例研究会

月例研究会(沼野伸生主査)は、システム監査に関係ある時代の動向を先取りした主題で講演会を設営し、今期は8回で879名（前年比38名減：平均参加者数110名）の参加を頂いた。

システム監査事例研究会

理論を監査の実践の場に生かすシステム監査事例研究会(吉田裕孝主査)のシステム監査実務セミナー2回、内部統制セミナー3回、及び今年から開始したシステム監査入門セミナーを1回開催した。なお、システム監査普及サービスについては受注がなく実施しなかった。

システム監査基準研究会

システム監査基準研究会(松枝憲司主査)は、21年度の作業成果として「システム監査基準 for オフショア」を協会HP上に公開し、会員及び広く一般から意見を収集した。

会報・広報・事務局活動等

定例の活動については、各研究会、分科会を含めて別に具体的報告がある。ここでは特記事項のみをまとめて報告する。

会員に対するコミュニケーションの最大の手段として「**日本システム監査人協会報**」(竹下和孝主査)を発行している。今年は「システム監査今後の10年」の活動を支援し、CSAの活動、支部の活動、監査の動向などの特集を組んだ。

また、**法人部会**(小野修一主査)は、定例部会を月1回実施し、会員企業同士でシステム監査ビジネスに関する情報交換を行うとともに、地方自治体向けおよび民間企業・団体向け情報セキュリティセミナーの企画・案内を行った。

「**CSA利用推進**」(力利則主査)は、CSA・ASAの交流の場として「CSAフォーラム」を1月、3月、6月、7月、9月、12月の計6回開催し、毎回約20名の参加者を得て、講師による報告と意見交換を行い、参加者にとって有意義な場の提供ができた。

事務局(馬場事務局長、金子副事務局長)は、ホームページのリニューアル、入会申込、セミナー申し込み等の入力フォームの改善、LAN環境の整備など、事務局作業の平準化、効率化のための対策を講じた。

(3) 公認システム監査人、システム監査人補の認定

① 認定登録の状況

8年目の公認システム監査人及びシステム監査人補の認定は以下のとおり行うことが出来た。公認システム監査人は春季11名、秋季11名、システム監査人補は春季8名、秋季15名で合計45名の方々の認定が終了した。

その結果、累計では**公認システム監査人が425名、システム監査人補が230名、あわせて総勢655名の資質の継続・維持・向上も担保されたシステム監査人が認定登録**されたことになる。

今回も認定業務では、面接業務(鈴木信夫主査)が審査として重要な役割を担い、東京地区の他に大阪(2回)、名古屋、仙台、広島の支部所在都市でも行われた。それぞれ原則として土曜日に実施し面接委員は1組2名であたった。

② 認定更新の状況

平成14年度、平成17年度に認定登録された公認システム監査人及びシステム監査人補の方々の認定更新に際し、公認システム監査人64名、システム監査人補163名の方々が失効となった。その結果、前記①に記載のとおり累計655名の陣容となっている。

平成15年度、平成18年度に認定登録された公認システム監査人及びシステム監査人補の方々については、昨年すなわち平成21年の年末に認定期限が到来したが、この認定更新時期を1月末と変更し、現在更新認定作業中である。

③ 特別認定講習実施状況

教育研修委員会(鈴木実主査)の別項の報告のとおり、実施機関2社の合計19回延べ30名の講習が実施された。

④ CSA継続研修

今年度は下記の内容でCSA継続研修を実施した。

- ・日時：平成21年10月24日(土) 13:30~17:00
- ・テーマ：地域金融機関の情報システム、現下の課題を探る
～プロジェクト管理/外部委託/共同化～
- ・講師：日本銀行金融機構局 企画役 大石 正人氏

2. 教育研修委員会

本年度も前年同様、特別講習認定機関に委託により会のコースを実施した。

(1) 論文・プレゼンテーションコース(1日コース)

実施回数：東京 6回、大阪 2回 計 8回

実施時期：2月2回、3月1回、5月1回、8月2回、11月1回、
12月1回

受講者：12名

(前年度実績 13回 受講者 26名)

(2) システム監査に関する知識コース(2日コース)

実施回数：東京 8回、大阪2回 計10回

実施時期：2月2回、3月2回、5月1回、8月3回、9月2回、11月1回、
12月1回

受講者：17名

(前年度実績 14回 受講者 35名)

(3) 情報システムに関する知識コース

実施回数：東京 1回、大阪 0回 計 1回

実施時期：10月1回

受講者：1名

(前年度実績 3回 受講者 9名)

(4) 特別講習実施機関および実施回数

- ・(有) インターゲデオン 1日コース6回、2日コース 9回 計15回
- ・情報システム監査(株) 1日コース2回、2日コース 2回 計 4回

合計 19回、受講者延べ 30名
 (前年度実績 1日コース7回、2日コース11回
 合計 15回、受講者延べ 60名)

(5) コース運営管理について

・各コースともに採点結果を、事務局で評価した。特に問題の発生はなく、本年度は再テストも発生しなかった。

3. 会報

(1) 概要

会報部会では、年6回の会報誌の定期発行を通じて、会員相互のコミュニケーション向上を図っています。今回は特に、「システム監査今後の10年」の活動を支援するため、CSAの活動、支部の活動、情報システム以外の監査の動向などを特集に組み込みながら編集しました。

また、各種研修会参加者からの受講報告も増えてきている。

2009年度会報担当委員

竹下和孝（主査）、吉田裕孝、仲 厚吉、桜井由美子、成 楽秀、片岡 学
 山田 隆、木村陽一、須田 勉、藤野明夫、山田正寛

今回は、一部、会報の電子化を実施しました。今後、電子化に伴う不便さも出てくるかと思われませんが、順次対応してまいります。

(2) 2009年に発行した会報の内容

号・月	特集	主な投稿記事（投稿者の敬称略）
106号 2009.2	特集（鈴木、清水） 中部（大野、栗山、中村、安井、浦田、若原）	・第142回月例研究会報告（藤野） ・CSAフォーラム報告（斎藤） ・九州支部（藤平、梶屋、諸藤）
107号 2009.4	総会特集記念講演（太田）	第10回内部統制監査人セミナー開催報告（沼野、大竹） ・第141回月例研究会報告（吉田） ・第144回月例研究会報告（市川）
108号 2009.6	CSA活動紹介（斎藤）	北信越報告（梶川、白井、竹村、清水、森） 投稿論文（宮下）
109号 2009.8	21世紀の監査（竹下）	145回月例参加報告（渡辺）
110号	近畿支部報告（小宮、	北信越報告（梶川、宮本、森）

2009. 10	是松、岡田、徳田、石綿) セミナ参加(広瀬、江村、田淵、安福)	148 回月例参加報告 (久保木) セミナ報告 (小松)
111 号 2009. 12	基準研オフショア	CSA 継続研修報告 (大石) 北信越 (白井、宮本、森) 近畿 (深田、尾浦)

(3) 2009 年の投稿論文

1 編の応募 (宮下重美さん) があり、査読の結果、実務に有益との判断で 108 号に掲載した。

4. 月例研究会

平成 21 年度は、以下の通り年間 8 回の研究会 (例年通り) を実施した。

回目	開催月日/ 場所	テーマ/講師	参加 人数
144	1 月 2 3 日 (金) 総評会館	テーマ : 「ビジネス・プロセス・マネジメント (BPM) 入門」 講 師 : 日本 BPM 協会 理事 事務局長 横川省三 氏	8 4
145	4 月 2 8 日 (火) 総評会館	テーマ : 「金融業務における情報セキュリティと暗号技術 —暗号アルゴリズムの世代交代問題を中心に—」 講 師 : 日本銀行金融研究所 情報技術研究センター長 岩下 直行 氏	1 1 7
146	5 月 2 5 日 (月) 総評会館	テーマ : 「高度情報化社会を見据えた情報システム・ ソフトウェアの信頼性向上に向けた取組み」 講 師 : 経済産業省商務情報政策局 情報処理振興課 課長補佐 安田 篤 氏	8 9
147	6 月 1 7 日 (水) 総評会館	テーマ : 「IT-ADR センターの取組みと今後の課題 ～L T 式システム紛争解決サービスと IT-ADR センターの意義～」 講 師 : エルティ総合法律事務所 所長・弁護士 藤谷 護人 氏	9 1
148	7 月 2 8 日 (火) 総評会館	テーマ : 「プロジェクト監査への取組事例」 講 師 : 株式会社三菱東京 UFJ 銀行 監査部業務監査室 上席調査役 金田 雅子 氏	1 9 8

回目	開催月日／ 場所	テーマ／講師	参加 人数
149	8月31日(月) 総評会館	テーマ： 「内部統制報告制度におけるIT統制の評価・監査を終えて ～IT統制の1年目の総括と、2年目に向けた経営者、 そして外部監査人に向けての提言～」 講師：あずさ監査法人 IT監査部パートナー 遠藤 誠 氏	92
150	11月9日(月) 総評会館	テーマ：「情報サービス産業の現状と課題」 講師：株式会社NTTデータ経営研究所 パートナー情報戦略コンサルティング本部長 三谷 慶一郎 氏	95
151	12月25日 (金) 総評会館	テーマ：「IFRSの概要とシステム監査について」 講師：有限責任監査法人トーマツ 新潟事務所 所長 白井 正 氏	113

○年間の開催回数は8回（前年比1回減）、総参加者数は879名（前年比37名減）で、各回の平均参加者数は110名（前年比8名増）であった。

総参加者数は開催回数が1回少なかったこともあり、若干減少しているが、各回の平均参加者数は約10名増加しており、前年に比し多くの方々に参加頂いたと言える。引き続きホットなテーマ、幅広い講師招聘をすすめ、多くの会員等の期待に応えていきたい。

また、参加者の内、当協会の会員以外の方の割合が約35%（前年比増減なし）となった。

当協会の月例研究会が、協会以外の方々からも引き続き注目され、今年も毎回多くの方々にご参加頂いた。

○講師の方の所属は、中央官庁（含. 日銀）が2名、監査法人が2名、民間企業・団体が2名、法律家が1名、当協会会員が1名であった。これはほぼ予定通りのバランスであった。

○各支部へ配付している録画ビデオは、各支部主催の研究会等でこれまで以上に積極的に活用されている。

○引き続き受付に定期的に学生アルバイトを配置し、多くの参加者のスムーズな受付業務を心がけた。

5. 法人部会

(1) 法人正会員 36社 (平成21年末現在)

入会 次の3社

- ・有限会社 Career-bridge
- ・ソフトウェアファクトリー株式会社
- ・イーコーポレーションドットジェーピー株式会社

退会 1社

(2) 活動内容

- ①定例部会を月1回開催した。
- ②法人正会員の増強を図るべく、次のところに入会案内のDMを送付した。
 - ・平成21年度システム監査企業台帳登録企業
- ③「自治体向け情報セキュリティセミナー」の内容を見直し、21年度版として案内した。
 - ・セミナー案内のDMを、全国都道府県の市以上の自治体に送付した。
 - なお、各支部管轄の道府県については、各支部から送付していただいた。
 - ・当協会のWebサイトで広報活動を行った。
- ④新たに「民間企業・団体向け情報セキュリティセミナー」の企画を立て、当協会のWebサイトでの広報、FISA（情報システム・ユーザ会連盟）主催のシステム監査講演会（2009/10開催）での案内チラシの配布を行った。
- ⑤「情報セキュリティセミナー」のコンテンツについてレビュー・見直しを行った。
- ⑥会員同士のシステム監査の普及・ビジネス化についての情報交換を行った。
特に、後半は、BCP（事業継続計画）をテーマとして、公式に発表されているガイドライン、報告書などを題材に情報・意見交換を行った。

6. CSA利用推進

(1) 活動の概要

- ・CSA利用推進の取組みは本年度で4年目に入り、本年度は、主にCSAのフェイスTOフェイスの相互研鑽、情報共有、議論の場としてCSAフォーラムをほぼ隔月に6回開催した。
- ・CSAフォーラムは、CSA（ASA含む）約百数十名の事前登録者を対象に、1月、3月、6月、7月、9月、12月に開催し、各回20数名の参加者に集まっていた。毎回講師による実践的なテーマの報告により参加者にとって有益な場の提供ができ、フェイスTOフェイスの交流が進んだ。
- ・昨年度以前から取り組んできたCSAパンフレットやCSA認定カード、CSAを入札条件に入れる依頼文の周知、CSA関連サイトの充実等についてはあまり活動ができなかったことを反省している。

(2) 活動の目的

- ・「CSAのプレゼンスを高める。CSAの社会的な評価や価値を高める。CSAの社会的な認知度を上げる。CSAになって良かったと思ってもらえる。CSA認定の付加価値を高める。CSAが社会的に認められ活動がしやすくなる」ということを活動の目的としている。
- ・今年度はCSAフォーラムによりCSA同志の交流と輪を広げることにより、相互連携等を行う基礎固めを第1の活動目標とした。

(3) CSAフォーラム活動

- ・昨年度よりCSA認定取得者の相互研鑽、情報共有、フェイスTOフェイスの意見交換の場として、“CSAフォーラム”を開催している。当初、CSA（ASA含む）認定取得者全員に募集案内を出し、事前登録者約百数十名の登録があった。事前登録はその後随時受け付けている。事前登録者に対して、“CSAフォーラム”の開催案内を発信して、各回とも20数名の参加者を得ることができている。今年度の開催内容は次の表の通りである。

月日	開催回	テーマ	報告者	概要
1/27	第3回	「CSA 実践報告&基準研紹介」	松枝憲司氏	・CSA資格のビジネス活用事例 ・システム監査基準研究会の活動紹介
3/5	第4回	「内部監査から見たシステム監査」	島田祐次氏	・システム監査を取り巻く環境と位置づけ ・内部監査と外部監査

				<ul style="list-style-type: none"> ・システム監査の実践
6/1	第5回	「組織人を幸せにするマネジメントシステムを目指して」	桜井由美子氏	<ul style="list-style-type: none"> ・マネジメントシステムの有効性、効率性 ・JIS規格の本意と日々の活動の実践
7/23	第6回	「システム監査の実践を通してのCIOの役割・課題への貢献」	小野修一氏	<ul style="list-style-type: none"> ・CIOに対するシステム監査の活用 ・システム監査の事例とCIOの役割、課題と問題解決
9/24	第7回	「オフショア開発成功のためのシステム監査」	山田隆氏	<ul style="list-style-type: none"> ・オフショア開発の背景、開発モデル、問題点 ・オフショア管理基準を用いたシステム監査実施の提案
12/2	第8回	「今までの振り返りと今後の予定」	CSAフォーラム事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・CSAフォーラムの第1～7回の振り返り ・参加者の要望と今後の予定

7. システム監査事例研究会

(1) 研究会メンバー : 109名 (2009年12月現在)

(2) 月例研究会開催

定例会 毎月第一水曜日 18:30~20:30

10回開催 延べ出席者数 132名

内容

- ・事例研メンバー講師による講演及び関連事項の討議
- ・システム監査実務・実践セミナーの運営に関する打ち合わせ
- ・既存セミナーの見直しと新セミナーの開発

(3) システム監査サービス

監査依頼の打診はあったものの、受託には至らなかった。

(4) システム監査実務・実践セミナー

- ・本年は4日間コースを1回開催し、1996年から実践・実務セミナーは通算32回の開催実績となった。9月に予定していた実務セミナーは受講申込が催行人員に満たず、開催を見送った。
- ・実務セミナー4日間コースは、2002年から開始し通算13回目となり、公認システム監査人の教育制度の一環として定着してきている。

①第32回(第13回実務セミナー4日間コース)

日時: 2月14日 10:00~ 15日 15:00、

2月21日 10:00~ 22日 15:00

場所: 千葉市幕張 海外職業訓練センター(OVTA)

参加者: 受講生7名、講師2名

②第33回(第14回実務セミナー4日間コース)

日時: 8月29日 10:00~ 30日 15:00、

9月 5日 10:00~ 6日 15:00

場所: 千葉市幕張 海外職業訓練センター(OVTA)

- ・実践セミナー2日間コースは、近畿支部で開催された。

(5) 内部統制セミナー

- ・J-SOX法に基づき、上場会社で構築、整備されたITの内部統制を、独立し客観的な立場で監査する監査人養成を目的として、2007年4回開催

したセミナーを平日3日間コースに拡張し、ITの全般統制に焦点をあてた実践的内容で、本年1回開催した。日本における内部統制が、構築から運用段階に入ったことにより、セミナーに対するニーズに変化が生じており、来年度以降の開催方法に工夫が必要となる。

① 第10回内部統制セミナー2日間コース

日時：1月24日 10:00～25日 17:00

場所：千葉市幕張 海外職業訓練センター（OVTA）

参加者：受講生10名、講師3名

② 第11回内部統制セミナー2日間コース

日時：4月25日 10:00～26日 17:00

場所：千葉市幕張 海外職業訓練センター（OVTA）

催行中止

③ 第12回内部統制セミナー3日間コース

日時：7月23日 10:00～25日 17:00

場所：東京都千代田区 総評会館

参加者：受講生9名、講師3名

④ 第13回内部統制セミナー3日間コース

日時：8月24日 10:00～26日 17:00

場所：情報セキュリティ大学院

催行中止

(6) システム監査入門セミナー

情報システム監査の必要性を認識していただくために、情報システムの事故・障害事例を題材に、新しいセミナーを開発した。

内容は、発生原因となったリスクを解き明かすと同時に、システム監査を行うことによって、事例の未然防止も可能であったことを解説します。

① 第1回システム監査入門セミナー

日時：9月12日 13:30～16:30

場所：山形県寒河江市

参加者：受講生16名、講師2名

教材開発チームは情報システム事故・障害事例の収集・整理を行い、多様な受講生を対象に出来るようなセミナー教材の準備を完了した。

8. 情報セキュリティ監査研究会

(1) 平成21年研究会研究項目

- ①情報セキュリティ監査基準の監査に関する情報・ノウハウの共有
- ②情報セキュリティ監査基準を利用する「基準ツール」の充実を図る
『情報セキュリティ監査のためのリスクの洗い出し
監査ツールの利用』の一般化、普及

(2) 活動結果

21年にはメンバーの時間がとれず、十分な活動が出来なかった。その為、21年に計画した内容のうち、「リスクの洗い出し」のデータ作成と、それを検索・利用する方法の検討までに止まった。

(3) 検討の経過

- ①“情報セキュリティ監査を効果的にはどうやるか”を課題としている。基本となる“リスクを洗い出す方法”については、情報取扱いのフロー(*)に基づくリスクアセスメントの手法により検討し、情報資産項目をキーにリスク要因を洗い出し、その対応方法を検討し、ツールの材料とする検討を進めた。

(*) 業務フローとは、オペレーションフロー、システムフロー、ワークフローなどをいう。

ノウハウの共有として、赤本に掲載した「基準ツール」の充実を図ることと、当研究会以外で試行してもらうことも意識したものである。

9. システム監査基準研究会

(1) 研究項目

- ① SAAJ システム管理基準体系

(2) 研究会項目

1) 各種開発環境・手法における監査のポイント

- ① 「システム管理基準 for オフショア」について、HP 上に公開して、会員と一般から、パブリックコメントを募集した。(10月～12月)
- ② 「Web システムにおける監査のポイント」(開発・利用)
原案を作成済みで、研究会内のレビュー中。
- ③ 「BCMにおける監査のポイント」
原案を作成済みで、研究会内のレビュー中。
- ④ 「プロジェクトマネジメント監査のポイント」
原案作成中
- ⑤ 「パッケージ導入における監査のポイント」
検討中

2) システム監査の視点の整理(特に有効性)

「目的適合性に関する監査の着眼点」と「投資対効果に関する監査の着眼点」から整理することを確認した。

3) COBIT4.1 とシステム管理基準のマッピング作業の作成 作業中

(3) 定例研究会

- ・定例研究会は、原則月1回開催した。

10. 個人情報保護監査研究会

当研究会は、個人情報保護の普及と、プライバシーマークの認証取得のためのセミナーの開催等に取り組んできたが、既にプライバシーマーク認証取得事業者が全国で1万を超えた状況にあり、これらの活動に対するニーズが少なくなってきた。そのため活動としては、メールによる情報交換と個人情報保護に関するガイドラインの改正等の関連情報を早期に入手し、メンバに提供した。このほか、NPO法人個人情報保護有識者会議研究会(9月30日開催)にオブザーバーとして出席し、当協会のPRと情報交換を行った。

11. 「システム監査これからの10年」10の提言対応チーム

当協会設立20周年事業でとりまとめた「システム監査のこれからの10年」報告書の中で発表した10の提言に対する対応を検討していくチーム活動を行った。

- ・チームメンバー；当該報告書のとりまとめに係わったメンバー
- ・主な活動内容；
 - (1) 主担当者を決めての、関連情報収集、論点・考え方の整理
 - (2) 月1回程度、チームメンバーが集まっての討議
 - (3) 有識者、関連団体との意見交換
 - ・学識経験者（大学教授）
 - ・行政機関（経済産業省セキュリティ政策室）
 - ・会員に参加してもらっての討議会

詳細については、別添資料をご参照ください。

II. 北海道支部

1. 第8回支部総会実施

日 時：12月11日(金) 18:30～20:00

内 容：2009年活動報告, 2010年活動計画,
2010年役員選出, 2010年研究会・勉強会計画,
2009年会計報告および2010年会計予算について

参加者：参加9名、委任10名

2. 定例研究会・勉強会実施

(1) 第1回VTR研究会：日時：1月16日(金) 18:30～20:30

テーマ：「郵便局株式会社におけるSaaS活用の概況について」

－第141回研究会のビデオ上映とディスカッション－

参加者：11名、うち支部員9名

(2) 第1回研究会：日時：2月16日(月) 18:30～20:30

テーマ：「SOAの考え方と技術動向」

－新しいシステム構築の考え方に関する研究発表とディスカッション－

参加者：7名、うち支部員7名

(3) 第2回VTR研究会：日時：3月18日(水) 18:30～20:30

テーマ：「CIOとガバナンス」

－第140回研究会のビデオ上映とディスカッション－

参加者：11名、うち支部員10名

(4) 第2回研究会：日時：4月22日(木) 18:30～20:30

テーマ：「金融機関のシステム統合 Part2

～三菱東京UFJ銀行の結果を受けて」

－金融機関のシステム統合の実務を通じた研究発表とディスカッション－

参加者：17名、うち支部員11名

(5) 第3回VTR研究会：日時：5月25日(月) 18:30～20:30

テーマ：「経済産業省の情報セキュリティガバナンス構想」

－第143回研究会のビデオ上映とディスカッション－

参加者：8名、うち支部員7名

(6) 第3回研究会：日時：6月25日(木) 18:30～20:30

テーマ：「ソフトウェア開発におけるモデル契約書」

－ソフトウェア開発契約に関する研究発表とディスカッション－

参加者：7名、うち支部員5名

(7) 第4回研究会：日時：7月13日(月) 18:30～20:30

テーマ：「本部事例研活動とシステム監査事例」

－内部監査の事例を基にしたシステム監査の研究とディスカッション－

参加者：14名、うち支部員13名

(8) 第4回VTR研究会：日時：8月24日(月) 18:30～20:30

テーマ：記念講演「経済犯犯罪」

－2009年総会時の記念講演のビデオ上映－

参加者：7名、うち支部員7名

(9) 第5回VTR研究会：日時：9月30日(水) 18:30～20:30

テーマ：「ビジネス・プロセス・マネジメント (BPM) 入門」

－第144回研究会のビデオ上映とディスカッション－

参加者：13名、うち支部員12名

(10) 第5回研究会：日時：10月19日(月) 18:30～20:30

テーマ：「プライバシーマーク取得体験談」

－自社のプライバシーマーク取得における研究発表とディスカッション－

参加者：10名、うち支部員9名

(11) 第6回VTR研究会：日時：11月17日(火) 18:30～20:30

テーマ：「金融機関におけるプロジェクト監査への取り組み事例」

－第148回研究会のビデオ上映とディスカッション－

参加者：15名、うち支部員11名

3. 広報活動

支部活動について対外的に広報、および支部員勧誘を行った。

- ・他団体との交流：北海道ITコーディネータ協議会、日本システムアナリスト協会北海道支部、および社団法人 中小企業診断協会北海道支部との講演会共催、勉強会の相互開放
- ・支部員の変動：2008年度 個人会員26名、法人会員3名
2009年度 個人会員25名、法人会員3名
- ・支部活動への参加：上記個人会員以外に、非会員7名、他支部3名および本部1名参加
- ・公認システム監査人4名、システム監査人補4名（計8名中支部員6名）

4. メーリング・リストによる連絡

- ・支部メーリング・リストにより、支部員間の連絡および情報交換を実施している。

5. ホームページによる情報発信

- ・協会のホームページの支部のコーナーに、北海道支部の情報を記載している。

Ⅲ. 東北支部

平成15年6月28日に設立した東北支部は、第7期の活動として、会員の増加、システム監査の普及、支部のPRなど、計画に基づいて以下のとおり活動した。

1. 平成21年度東北支部総会

- ・平成21年1月17日（土） エルソーラ仙台「研修室1」
出席者：会員数38名 出席者26名(内委任状13名)
- ・議 題：報告事項1 平成20年度事業活動
報告事項2 平成20年度収支報告
第1号議案 平成21年度活動計画
第2号議案 平成21年度予算計画
第3号議案 平成21年度役員選任
支部長：高橋 典子
副支部長：佐藤賢一、田口三郎
研究会：高橋壮太、小野寺司、舘田あゆみ
広 報：櫻谷昭慶、横倉正教
会 計：佐藤雅英
監 事：成田由加里
顧 問：鈴木 実
- ・勉強会（総会終了後）
ネットコンピューティングアライアンス会長・津田邦和氏著書「ブロードバンドSaaSがつくる新市場」を参考に、出席者による「SaaSとシステムSaaSとシステム監査」というテーマでの意見交換を実施。

2. セミナー・ワークショップ

(1) 事例発表セミナー in 寒河江

テーマ：なぜ？ そのコンピューターは動かないのか

システムの事故・障害、起きる仕組みと防ぐ仕組み

＜事例から学ぶシステム監査の役割＞

日 程：平成21年9月12日（土） 13時30分～16時30分

場 所：ホテルサンチェリー（山形県寒河江市）

参加者：16名

内 容：

事例1：大手電機メーカーの受発注・物流システムの障害

事例2：医療機器メーカーの統合システム構築工程の障害

日本システム監査人協会 矢島 利夫 氏・大西 智 氏

※翌日、会員交流会として、そば打ちを実施し、相互の親睦を深めた。

(2) ITCみやぎ・SAAJ東北、JSAG東北ワークショップ2009

日 程：平成21年10月23日（金）～24日（土）

※当支部が主催担当は、24日9時～12時

場 所：戦災復興記念館 大会議室

参加者：37名

主 催：日本システム監査人協会東北支部

ITコーディネータ宮城会（ITCみやぎ）

日本システムアナリスト協会東北支部（JSAG東北）

後 援：経済産業省推進プロジェクト「東北IT経営応援隊」

東北経済産業局、NPO法人ITコーディネータ協会

内 容：

①講演「中小企業経営者が求めるもの」

(株)日本政策金融公庫 支店長兼中小企業事業統轄 田部 貴夫氏

②講演「内部統制報告制度におけるIT統制の評価・監査を終えて」

日本システム監査人協会 理事 遠藤 誠氏

3. 定例研究会及び役員会

(1) 3月例会

・平成21年3月7日（土）14:00～17:00

福島市 コラッセ福島 3F 302A会議室

・報告事項

本部定時総会の報告

・勉強会「IT統制監査実践マニュアル」第5回勉強会

(2) 5月例会

・平成21年5月23日（土）14:00～17:00

仙台市AER28階 エル・ソーラ仙台「研修室2」

・報告事項

連絡事項等

・勉強会「J-SaaS勉強会」

(3) 7月例会

・平成21年 7月18日（土）14:00～17:00

仙台市AER28階 情報・産業プラザ 特別会議室

・報告事項

9月の山形合宿セミナーについて

・勉強会「クラウドコンピューティングに関する情報交換」

(4) 11月例会

・平成21年11月21日（土）14:00～17:00

カメイ仙台中央ビル（株式会社富士通東北システムズ 研修会議室）

- ・ 報告事項

- ワークショップ報告

- 支部総会について

- ・ 勉強会「J-SaaSについて」

(5) 12月役員会

- ・ 平成21年12月19日（土） 17:30～19:30

- カメイ仙台中央ビル（株式会社富士通東北システムズ 研修会議室）

- ・ 議題

- ・ 支部総会および講演について

- ・ 本部への報告事項について

4. 情報交換

隔月毎に開催している月例会（東北南部三県幹事持ち回り）後には、懇親会を実施して、各県の状況および会員間での情報交換を行った。9月の月例会はセミナーに変更し、翌日そば打ち体験を実施し、親睦を深めた。

また、メーリングリストによる本部情報、支部会員間の連絡および情報交換を実施した。

5. 広報宣伝活動

- ・ 20周年記念事業を通して、東北各地のITC組織、日本システムアナリスト協会東北支部、東北経済産業局、東北IT経営応援隊などに対して、システム監査の普及および支部活動の宣伝を行った。

- ・ システム監査入門コース in 寒河江（9月12日）やITCみやぎ・SAAJ東北・JSAG東北ワークショップ（10月23日・24日）を通して、一般参加者、東北各地のITC組織、日本システムアナリスト協会東北支部、東北経済産業局、東北IT経営応援隊などに対して、システム監査の普及および支部活動の宣伝を行った。

なお、システム監査入門コース in 寒河江においては、山形新聞にセミナー案内をアプローチし、後日、新聞に掲載された。

IV. 北信越支部

1. 本年度の目標

- ・ 研究チーム継続によるシステム監査の技術基盤の向上。
- ・ 本部、他支部との交流による知識、技術力の向上。
- ・ プレゼンテーション能力の向上。
- ・ インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上。

2. 活動報告

(1) 1月31日(土) ITビジネスプラザ武蔵 5F 研修室

1. 参加：宮本様，國谷様，尾島様，清水様，木村様，角屋様，
森田様，福田様，神田様，白井様，河村様，小嶋様，森

2. 内容；

- ① 2008年の報告・2009年の予定 森
- ② 報告1「将来のあるべきIT戦略を考える」
清水 尚志 氏
- ③ 報告2「ISO/IEC15408の企画・開発業務監査への適用について(仮題)」木村 武志 氏
- ④ システム監査研究会経過報告
経済産業省 IT経営協議会
「IT経営ロードマップ 事例1：(株)リコー」 森 広志 氏
- ⑤ 研究会ビデオの貸し借り

(2) 3月14日(土) アーバンプレイス富山8階会議室

1. 参加：宮本様，國谷様，坂井様，小嶋様，尾島様，白井様，森田様，
森

2. 内容；

- ① 年度総会
 - ・ 昨年度行事報告と今年度行事計画について
 - ・ 昨年度会計報告と今年度予算について
- ② 講演
「経営とITについて」 國谷 吉英 氏
- ③ システム監査研究会経過報告
「IT経営ロードマップ 事例2：JFEスチール(株)」について
森 広志 氏
- ④ 情報セキュリティ監査研究会経過報告
「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱い

のためのガイドライン」概要説明 宮本 茂明 氏

⑤ 研究会ビデオの貸し借り

(3) 5月16日(土) 中部支部5月例会

岐阜県大垣市ドリームコア マルチメディア研修室

(医療情報に関するテーマを受け、北信越支部より発表)

「医療機関の個人情報保護研究について」

宮本 茂明 氏

(4) 6月20日(土) 福井織協ビル 803号室

1. 参加：角屋様、栃川様、宮本様、國谷様、福田様、小嶋様、森田様、
清水様、木戸様、坪田様、斉藤様、佐藤様、森

① 近況報告

② 発表「J-SaaSとクラウド」

栃川 昌文 氏

③ 発表「中小企業のセキュリティ監査」

前中部支部長 大野 淳一 氏

④ システム監査研究会経過報告

「IT経営ロードマップ・事例5：イオン株式会社、及び
ウォルマートのIT戦略」森 広志 氏

⑤ 情報セキュリティ監査研究会経過報告

「医療機関の個人情報保護研究」活動状況と今後の予定
宮本 茂明 氏

⑥ 研究会ビデオの貸し借り

(5) 9月12日(土) 監査法人トーマツ 新潟事務所 会議室

1. 参加：宮本様、白井様、神田様、清水様、木村様、森田様、國谷様、森

① 近況報告

② 発表「IFRS(国際財務報告基準)の概要とシステムに対する影響」
公認会計士 白井 正 氏

③ 「情報システムの信頼性向上に関するガイドラインについて」
宮本 茂明 氏

④ 「IT経営ロードマップ 事例3(株)JTBC及び
ホリスティック・マーケティングとIT経営可視化について」
森 広志 氏

⑤ 研究会ビデオの貸し借り

(6) 11月14日, 15日 西日本支部合同研究会 in OSAKA Bay

大阪ワールドトレードセンタービルディング, ホテルコスモスクエア
国際交流センター

1. 内容：

(1) 各支部活動報告

- (2) 基調講演 「コンプライアンス問題とシステム監査」
大阪成蹊大学 松田貴典教授
- (3) 発表1 「企業コンプライアンスと内部告発」
関口 幸一氏(中部支部会員)
- (4) 発表2 「コンプライアンスの形骸化に対する
システム監査のあり方」 荒添 美穂氏(九州支部会員)
- (5) フリーディスカッション
- (7) 12月12日(土) ITビジネスプラザ武蔵 4F 情報化研修室
 - 1. 参加：白井、角屋、宮本、國谷、小嶋、河村、森田、清水、森
 - ① 今年度の報告、来年度の予定 森広志 氏
 - ② 報告「西日本支部合同研究会参加報告」
宮本 茂明 氏、森広志 氏
 - ③ システム監査研究会経過報告
「IT経営ロードマップ・事例4：カルビー(株)」について
森 広志 氏
 - ④ 情報セキュリティ監査研究会経過報告
「情報セキュリティガバナンス実態調査2008」について
宮本 茂明 氏
 - ⑤ 研究会ビデオの貸し借り

3. 支部役員

支部長 森広志(富山)、副支部長 宮本茂明(石川) 梶川明美(富山)
白井正(新潟)、顧問 伊藤祐太郎(富山) 松原一彦(石川)
会計 坂井敏之(富山)、情報統括 清水尚志(石川)
県部会長 角屋典一(福井)、木村武志(石川)、國谷吉英(富山)、
風間一人(新潟)、堀明雄(長野)
書記 尾島純子(富山)、監事 高瀬清春(富山)

V. 中部支部

1. 活動方針

- ・中部支部内会員、およびの継続的な相互研鑽・交流を図る。
- ・中部支部以外の地域や団体との人材交流を積極的に展開していく。

2. 活動体制 (敬称略)

支部長 : 田中 勝弘
副支部長 : 杉山 浩一
会計担当 : 早川 晃由(新任)
会計監査 : 山田 和夫
顧問・監事 : 若原 達朗
支部担当役員: 山崎(敏)(広報担当)、井戸(会員担当)、堤(西日本合同研究会)、
石井(研究開発担当)、原(国際取引研究・国際交流)、
萬代(システム取引法務研究)、高間(渉外担当)、関口(渉外担当)、
田原(東京駐在)、山口(東京駐在)

3. 活動内容

(1) 例会

- ・ SAAJ中部支部総会/第1回例会 (1/24 名古屋市(東桜) 参加13名)
2009年支部活動計画
 - ・ 例会開催の日程及び担当者の決定
3月14日、5月16日、7月11日、9月12日
開催場所は5月大垣市、9月四日市市
それ以外は名古屋市内を予定
 - ・ 合宿
11月28日-29日を予定
内容などは今後随時決定
講演「比較優位について」 若原 達朗 様
報告「2008年西日本合同研究会(北信越)の報告」堤 薫 様
- ・ 第2回例会 (3/14 名古屋市(東桜) 参加18名)
報告「SAAJ通常総会&記念講演の報告」早川 晃由 様
講演I「中小企業のセキュリティ監査」大野 淳一 様
講演II「SaaSについて」関口 幸一 様
- ・ 第3回例会 (5/16 大垣市(ドリームコア マルチメディア研修室1)

参加20名)

講演I「デジタルジャパンにおける医療情報システムへの期待」

田原 保 様

講演II 北信越支部「医療機関の個人情報保護監査研究」活動状況報告

北信越支部 宮本 茂明 様

・第4回例会 (7/11 名古屋市(東桜) 参加19名)

講演I「CMMI とその導入に向けて」安井 秀樹 様

講演II「SaaS (技術編)」関口 幸一 様

・第5回例会 (9/12 四日市市楠福社会館 2階第1会議室 参加18名)

講演「CSAフォーラムについて」本部理事 齊藤 茂雄 様

(2) イベント

・SAAJ西日本支部合同研究会 (11/14-15 ; 大阪市)

※近畿支部/中国支部/九州支部/北信越支部と共催 (幹事支部 : 近畿支部)

・SAAJ中部支部/JSAG中部支部合同合宿

(11/28-29 ; 知多郡東浦町(あいち健康プラザ))

参加(17名)

合宿テーマ ; システム監査作業の実践力養成

(SAAJ近畿支部殿のシステム監査入門セミナーを活用)

講演 : 「小売業の販売管理システムのポイント」

(株)富士通中部システムズ 増田 仙蔵 様

VI. 近畿支部

1. 支部体制（敬称略）

（1）支部役員

支部長 吉田 博一
副支部長 藤野 正純、関西 康一郎
会計担当 片岡 学
監事 福德 泰司
参与 木村 安寿、中谷 正明、安本 哲之助

（2）サポーター

近畿支部の運営にご協力頂くメンバーを「サポーター」として、研究会等のお手伝いやサポーター会議で運営方針の検討に参加して頂いております。

2. 近畿支部総会 1月21日（土）大阪府商工会館 701号室

出席者：26名、委任状77名

（支部会員170名に対して過半数の出席者、委任状があり、有効に成立）

議事次第：1 2008年度の活動報告及び決算について

2 2009年度の事業計画及び予算について

3 支部規約の改正について(総会成立要件を本部定款に合わせる)

全議案につき、承認、可決された。

3. サポーター会議

平成21年度サポーター会議 12月19日（土）

場 所：学校法人 常翔学園大阪センター 301教室

テーマ：（1）平成22年度の支部役員体制について

- ・支部役員の増員
- ・支部役員の決定方法

（2）平成21年度の振り返りと平成22年度の活動について

主な活動案

- ・実践セミナー（22年6月を予定）
- ・入門セミナー（時期未定）
- ・コンプライアンスのシステム監査基準研究会（仮称）

参加者：24名

4. 定例研究会活動（奇数月 第3金曜日 講師による発表形式）

- (1) 第111回定例研究会 1月16日（金）大阪市立大学文化交流センター
テーマ：「豊中市役所におけるISO/IEC27001取得を振り返って」
講師：松岡 勝義氏 出席者：30名
- (2) 第112回定例研究会 3月19日（金）大阪市立大学文化交流センター
テーマ：「いざという時に役立つBCPへの改善アプローチ」
講師：松井 秀雄氏 出席数：34名
- (3) 第113回定例研究会 5月15日（金）大阪市立大学文化交流センター
テーマ：「プロジェクト管理と工事進行基準」講師：雑賀 努氏 出席数：40名
- (4) 第114回定例研究会 7月17日（金）学校法人常翔学園大阪センター
テーマ：「IFRS（国際財務報告基準（国際会計基準））と情報システム」
講師：武田 雄治氏 出席数：58名
- (5) 第115回定例研究会 9月18日（金）学校法人常翔学園大阪センター
テーマ：「地方公共団体におけるICT部門の業務継続計画（BCP）」
講師：川端 純一氏 出席数：42名
- (6) 第116回定例研究会<ISACA大阪支部との合同講演会>12月19日（金）
学校法人常翔学園大阪センター
テーマ：「国際財務報告基準(IFRS)が情報システムに与える影響について」
講師：久保 陽子氏 出席数：77名

5. システム監査勉強会（偶数月 第3土曜日 本部月例研究会ビデオ視聴・討議）

- (1) 第19回 2月21日（土）大阪府商工会館 701号室 出席者：32名
第138回「株式会社サウンドハウスにおける個人情報流出事件と対応（Web攻撃の脅威に立ち向かうには）」
- (2) 第20回 4月18日（土）大阪大学中之島センター 出席数：36名
①第139回「IT経営の実現に向けて～IT経営協議会とIT経営憲章」
②第140回「CIOとガバナンス」
- (3) 第21回 6月20日（土）大阪大学中之島センター 出席数：33名
①第141回「郵便局株式会社におけるSaaS活用の概況について」
②第142回「情報大航海時代の到来ーリアルとネットを結ぶ知的情報アクセス基盤ー」
- (4) 第22回 10月17日（土）常翔学園大阪センター 出席数：37名
第149回「内部統制報告制度におけるIT統制の評価・監査を終えて ～IT統制の1年目の総括と、2年目に向けた経営者、そして外部監査人に向けての提言～」

6. セミナー活動

(1) システム監査実践セミナー

システム監査実践セミナー2日間コース(近畿支部主催)は、早期申込み割引制度を導入し、全国から受講者が集まった。

日 時：平成21年6月27日(土)～6月28日(日)

1日目 13:00～21:00 2日目 9:00～16:00

受講者数：16名

(2) システム監査入門セミナー

初心者向けシステム監査の体験版を行い、同内容を中部支部でも実施した。

日 時：平成21年8月8日(土) 13:00～17:00

受講者数：15名

(3) 近畿支部20周年+1公開シンポジウム—なんているねん！システム監査—

20周年記念シンポジウムで提起されたシステム監査の課題について、議論を深めました。

情報システムの障害により社会的に大きな影響を与えた企業に対してシステム監査の実施状況を質問・確認するようにマスコミに働きかけをするなど具体的な行動の提言がありました。

日 時：平成21年8月29日(土) 13:00～17:00

場 所：大阪大学中之島センター10F佐治敬三メモリアルホール

内 容：基調講演 「厚生労働省におけるシステム監査の活用事情」

鈴木 実 氏 (日本システム監査人協会理事)

パネルディスカッション「なんているねん！システム監査」

パネラー：佐竹 博利 氏 中村 謙一 氏 雑賀 努 氏

モデレータ：浦上 豊蔵 氏

出席者：53名

(4) 西日本支部合同研究会

(中部支部・北信越支部・近畿支部・中四国支部・九州支部)

日 時：平成21年11月14日(土)13:30～15(日)15:30

内 容：

一日目 見学会「WTCビルにおける制御系システム等」

懇親会 宿泊

二日目 研究会

テーマ：「コンプライアンスとシステム監査」

基調講演：「コンプライアンス問題のシステム監査」

大阪成蹊大学 松田貴典教授(近畿支部会員)

発表1：「企業コンプライアンスと内部告発」

関口 幸一氏(中部支部会員)

発表2：「コンプライアンスの形骸化に対するシステム監査のあり方」

荒添 美穂氏(九州支部会員)

フリーディスカッション

場 所：コスモスクエア国際交流センター（研究会、懇親会）

出席者：見学会23名、研究会36名

参加者数：近畿20名、中部6名、九州4名、中四国2名、北信越2名参加

幹 事：近畿支部

研究会では、20周年＋1公開シンポジウムで出されたテーマであるコンプライアンスとシステム監査を中心に考えてみました。今後もこのテーマで研究を続けていこうということになりました。

7. システム監査サービス

i社に対してシステム監査サービスを行い、12月18日（金）に監査報告会が行われた。

8. 支部運営体制について

支部サイトを立ち上げ、ML等の連絡や定例研究会の資料のダウンロードに利用した。

Ⅶ. 中四国支部

1. 活動概要

- ・ ほぼ月に一度月例会を実施。（計 11 回実施）
- ・ 支部メーリングリストによる連絡、情報交換。

2. 活動実績

月例研究会（東京）のビデオの視聴及び情報交換を中心に月例会を実施した。

- (1) 平成 21 年 1 月度月例会 1 月 30 日（金）18:30-20:30
「CIO とガバナンス」（ビデオ視聴及び情報交換）出席 10 名
- (2) 平成 21 年 2 月度月例会 2 月 18 日（水）18:30-20:30
「郵便局株式会社における SaaS 活用の概況について」（ビデオ視聴及び情報交換）出席 10 名
- (3) 平成 21 年 3 月度月例会 3 月 25 日（水）18:30-20:30
「情報大航海時代の到来—リアルとネットを結ぶ知的情報アクセス基盤—」（ビデオ視聴及び情報交換）出席 8 名
- (4) 平成 21 年 4 月度月例会 4 月 15 日（水）18:30-20:30
「経済産業省の情報セキュリティガバナンス構想」（ビデオ視聴及び情報交換）出席 11 名
- (5) 平成 21 年 5 月度月例会 5 月 16 日（土）13:00-17:00
「IT 投資効果の最大化に向けて」（講演）
日本システム監査人協会 副会長 三谷慶一郎 氏
「J-SOX 適用初年度を終えて」（発表）
中四国支部 公認システム監査人 佐藤 康之 氏
「支部活動からみたシステム監査人の育成」（発表）
九州支部 公認システム監査人 福田 啓二 氏
「専門学校における情報セキュリティーポリシー策定」
中四国支部 IT コーディネータ 白城 真也 氏 出席 34 名
- (6) 平成 21 年 6 月度月例会 6 月 17 日（水）18:30-20:30
「ビジネス・プロセス・マネジメント（BPM）入門」（ビデオ視聴及び情報交換）出席 7 名
- (7) 平成 21 年 7 月度月例会 7 月 15 日（水）18:30-20:30
「金融業務における情報セキュリティと暗号技術—暗号アルゴリズムの世代交代問題を中心に—」（ビデオ視聴及び情報交換）出席 5 名
- (8) 平成 21 年 9 月度月例会 9 月 16 日（水）18:30-20:30
「高度情報化社会を見据えた情報システム・ソフトウェアの信頼性向上に向けた取組み」（ビデオ視聴及び情報交換）出席 11 名

- (9) 平成 21 年 10 月度月例会 10 月 14 日 (水) 18:30-20:30
「IT-ADR センターの取組みと今後の課題～L T 式システム紛争解決サービスと IT-ADR センターの意義～」(ビデオ視聴及び情報交換) 出席 6 名
- (10) 平成 21 年 11 月度月例会 11 月 19 日 (水) 18:30-20:30
「内部統制報告制度における I T 統制の評価・監査を終えて～IT 統制の 1 年目の総括と、2 年目に向けた経営者、そして外部監査人に向けての提言～」(ビデオ視聴及び情報交換) 出席 12 名
- (11) 平成 21 年 12 月度月例会 12 月 16 日 (水) 18:30-20:30
中四国支部総会 (事業報告、事業計画、役員改選) 出席 13 名

3. 支部役員

支部長：溝下 博
会 計：清野敏弘
顧 問：大谷完次

副支部長：福田陽一、福原博明
監 事：池田光孝

VIII. 九州支部

1. 支部の状況と役員体制

●支部会員 50名（平成21年11月末日時点。昨年比3名減）

●役員体制

支部長	福田啓二
副支部長	船津 宏 荒添美穂
会計	松嶋 敦
監査	居倉圭司
顧問	行武郁博
地区担当	(大分) 藤平 実 (長崎) 平山克己 (鹿児島) 山下博美 (沖縄) 井海宏通

2. 活動概要

(1) 月例会の開催

通例どおり、月1回の月例会を開催した。(福岡市)
システム監査学会九州地区研究会との連携を継続した。

(2) 支部設立20周年記念講演会を開催(12/12)

(3) 他団体との合同イベントとして、今年で5回目にあたる 大分合同セミナー(5団体)を開催した(11/7)。

3. 月例会

毎月、東京での月例研究会ビデオ視聴および支部会員の研究・検討・報告事項の発表を中心に行った。

以下は各月の主要事項。(各回の主要発表事項)

(1) 第218回 1月度月例会 1月24日(土) 14:00~17:00 (参加:8名)

内容: ビデオ視聴 第142回月例研究会「情報大航海時代の到来
ーリアルとネットを結ぶ知的情報アクセス基盤ー」

(1) セキュリティ技術トピック紹介(その1)

Outbound Port 25 Blocking (福田)

(2) 「パーソナル情報研究会報告書-個人と連結可能な情報の保護と 利用のために-」(船津)

(2) 第219回 2月度月例会 2月23日(土) 13:00~17:00 (参加:9名)

内容: ビデオ視聴 第143回月例研究会
「経済産業省の情報セキュリティガバナンス構想」

(1) 通常総会参加報告(福田)

(2) 「パーソナル情報研究会報告書-個人と連結可能な情報の保護

- と利用のために-」について（続き～討論）（船津）
- (3) 第 220 回 3 月度月例会 3 月 28 日（土）15:00～17:00（参加：11 名）
内容：(1) 中小企業向け SaaS 活用基盤整備事業について（溝田）
(2) セキュリティ技術トピック（その 2）～XSS について（福田）
- (4) 第 221 回 4 月度月例会 4 月 25 日（土）13:00～17:00（参加：12 名）
内容：ビデオ視聴 通常総会記念講演
(1) クレジット産業向け“PCI DSS”と ISMS ユーザーズガイドについて（中尾）
(2) セキュリティ技術トピック（その 3）（福田）
- (5) 第 222 回 5 月度月例会 5 月 23 日（土）13:00～17:00（参加：9 名）
会場：西南学院大学 西南コミュニティセンター 2 階プロジェクトルーム
内容：ビデオ視聴 「ビジネス・プロセス・マネジメント（BPM）入門」
(1) 経済産業省「情報セキュリティ関連法令の要求事項（案）」の紹介（船津）
(2) セキュリティ技術トピック（その 4）（福田）
- (6) 第 223 回 6 月度月例会 6 月 28 日（土）13:00～17:00（参加：12 名）
内容：ビデオ視聴 「金融業務における情報セキュリティと暗号技術
—暗号アルゴリズムの世代交代問題を中心に—」
(1) 参加イベント報告（船津）
(2) セキュリティ技術トピック（その 4～5）（福田）
- (7) 第 224 回 7 月度月例会 7 月 26 日（土）13:00～17:00（参加：10 名）
内容：ビデオ視聴
第 146 回月例研究会（2009 年 5 月 25 日開催）
「高度情報化社会を見据えた情報システム・ソフトウェアの信頼性向上に向けた取組み」
(1) IT マネージメント・サポート共同組合について（中溝）
(2) システム監査学会九州地区システム監査研究会 特別大会の企画
個人情報保護専門監査人部会報告
個人情報保護経済産業分野のガイドライン意見募集（船津）
- (8) 第 225 回 8 月度月例会 8 月 23 日（土）15:00～17:00（参加：7 名）
内容：(1) セキュリティ技術トピック（その 6）
～DNS キャッシュポイズニング（福田）
- (9) 第 226 回 10 月度月例会 9 月 20 日（土）13:00～17:00（参加：10 名）
内容：ビデオ視聴 第 148 回月例研究会
「金融機関におけるプロジェクト監査への取り組み事例」
三菱東京UFJ 銀行 監査部業務監査室 上席調査役 金田雅子氏
(1) システム監査学会特別大会の報告（船津）
(2) 大分合同セミナーの開催について（藤平）

- (3)第30回システム監査講演会報告(福田)
- (10)第227回11月度月例会 11月21日(土) 13:00~17:00(参加:10名)
 内容:ビデオ視聴 第149回月例研究会(2009/8/31開催)
 「内部統制報告制度におけるIT統制の評価・監査を終えて
 ~IT統制の1年目の総括と、2年目に向けた経営者、
 そして外部監査人に向けての提言~」
 (1)大分合同セミナーの開催報告(藤平)
 (2)西日本支部合同研究会参加報告
- (11)第229回 平成21年度九州支部総会(兼、12月度月例会)(参加10名)
 日時:平成20年12月12日(土) 14:00~17:00
 会場:福岡市NPO・ボランティア交流センター セミナールーム
 内容:記念講演
 演題「地域金融機関の情報システム、現下の課題を探る
 ~プロジェクト管理/外部委託/共同化~」
 講師 日本銀行金融機構局 企画役 大石正人氏
 九州支部総会
 ①平成21年度事業報告 ②平成22年度事業計画
 ③平成22年度役員改選

4. 主催、共催イベント

- (1)システム監査学会九州地区システム監査研究会特別大会
 日程 2009年9月19日(土) 13:00~17:10
 会場 西南学院大学 コミュニケーションセンター・大ホール
 大会テーマ:「地域企業、中小企業とシステム監査」
 基調講演:13:05~14:00
 講演内容:「中小企業と事業継続」
 講演者: 森宮 康 明治大学商学部教授システム監査学会会長
 特別講演1:14:00~14:55
 講演内容:「リスクマネジメントシステムとしてのJISQ15001」
 講演者: 船津 宏 オフィス船津代表 個人情報保護専門監査人
 特別講演2:15:10~16:05
 講演内容:「中小企業のためのシステム監査と継続的改善アプローチ」
 講演者: 荒添 美穂 (有)インテリジェントパーク代表取締役
 特別講演3:16:05~17:10
 講演内容:「小規模企業のインターネット・セキュリティ」
 講演者: 福田 馨 九州産業大学 経営学部教授

(2) 大分合同セミナー

- 日時 : 平成21年11月7日(土) 13:00~17:40
会場 : 大分市 アイネス
主催 : 中小企業診断協会大分県支部、ITC大分
日本システム監査人協会、システム監査学会
特定非営利活動法人 大分IT経営推進センター
後援 : 特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会
内容 : ①「障害者授産施設の工賃アップに向けて」
(社) 中小企業診断協会 大分県支部 吉松 研一 氏
②「プロが伝える日本経済新聞の読み方・活用の仕方」
石松 茂 氏
③「システム監査を巡る動向と事例」
システム監査人協会 九州支部長 福田 啓二 氏

5. メーリングリスト

平成21年(平成20年12月~平成21年11月末) 262通
(前年 457 前々年 400通)
月例会案内および出欠連絡、各種公表(システム監査関連)情報、
セミナー情報など。

第2部 会計報告及び会計監査報告

1. 平成21年度 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録

平成21年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第8期

(単位：円)

科目・摘要	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現預金			
・本部現預金			
三井住友銀行（日本橋東）	758,781		
みずほ銀行（八重洲口）	838,811		
三菱東京UFJ銀行（日本橋）	1,437,492		
イーバンク銀行	1,102,966		
郵便振替口座	1,022,170		
郵便普通貯金	1,043		
小口現金	129,343		
・支部現金預金			
北海道支部	257,176		
東北支部	117,185		
北信越支部	175,225		
中部支部	592,911		
近畿支部	407,018		
中・四国支部	281,306		
九州支部	157,235	7,278,662	
未収入金（延べ148名分の会費等）		1,484,000	
流動資産合計			8,762,662
2 固定資産			
器具備品			
シュレッダー1台	34,614		
パソコン1台	9,923		
プロジェクター 4台	71,169		
サーバー1台	202,678	318,384	
ソフトウェア			
新会員管理システム一式	735,000	735,000	
敷金（共同ビル）		1,652,480	
固定資産合計			2,705,864
資産合計			11,468,526

科目・摘要		金額		
II 負債の部				
1 流動負債				
預り金	(報酬等に係る源泉徴収税)	242,719		
前受金	(翌年以降分の会費)	60,000		
流動負債合計			302,719	
負債合計				302,719
III 差引 期末正味財産合計額				11,165,807

平成21年度特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表

平成21年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第8期

(単位：円)

資産の部			負債の部		
科目	金額		科目	金額	
流動資産			流動負債		
現金預金	7,278,662		預り金	242,719	
未収入金	1,484,000		前受金	60,000	
流動資産合計		8,762,662	流動負債合計		302,719
固定資産			正味財産の部		
器具備品	318,384		前期繰越正味財産	14,982,183	
ソフトウェア	735,000		当期正味財産減少額	3,816,376	
敷金	1,652,480		正味財産合計		11,165,807
固定資産合計		2,705,864	負債及び		
資産合計		11,468,526	正味財産合計		11,468,526

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却

器具備品は定率法、ソフトウェアは定額法により、帳簿価額を直接減額している。

(2) 資金の範囲

資金の範囲は、現金と流動性預金としている。前期末及び当期末残高は、下記2に記載した通りである。

(3) 消費税に関する会計処理方法

税抜方式によっている。なお、控除仕入税額は、消費税法第60条第4項により特定収入に係る課税仕入れ等の税額のみを控除している。

2. 次期繰越収支差額の内容

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	11,691,568	7,278,662
合 計(イ)	11,691,568	7,278,662
固定性預金	0	0
合 計(ロ)	0	0
次期繰越収支差額(イ)-(ロ)	11,691,568	7,278,662

3. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次の通りである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
器具備品	2,567,365	2,248,981	318,384
ソフトウェア	1,617,000	882,000	735,000
合 計	4,184,365	3,130,981	1,053,384

平成21年度 特定非営利活動に係る事業会計 収支計算書

平成21年1月1日から平成21年12月31日まで

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第8期

(単位：円)

科 目	予算 (細目)	実績 (細目)	差引 (実績-予算)
I 収入の部			
1 入会金・会費収入	10,580,000	10,152,000	△428,000
入会金収入	80,000	128,000	48,000
会費収入	10,500,000	10,024,000	△476,000
2 事業収入	15,420,500	11,679,184	△3,741,316
普及・啓発、広報事業	0	0	0
研究・研修事業	12,020,500	5,452,084	△6,568,416
認定事業	3,400,000	6,227,100	2,827,100
3 寄付金収入	0	0	0
4 その他収入	1,430,000	2,491,167	1,061,167
支部収入	1,400,000	2,264,799	864,799
雑収入	30,000	226,368	196,368
当期収入合計 (A)	27,430,500	24,322,351	△3,108,149
II 支出の部			
1 事業費	22,198,400	13,021,547	△9,176,853
普及・啓発、広報事業費	5,880,000	4,431,319	△1,448,681
研究・研修事業費	12,318,400	4,758,141	△7,560,259
認定事業費	4,000,000	3,832,087	△167,913
2 管理費	12,864,000	14,599,438	1,735,438
通信費	210,000	223,193	13,193
旅費交通費	1,200,000	1,125,858	△74,142
消耗品費	400,000	174,465	△225,535
会議費	600,000	613,502	13,502
事務局手当	4,500,000	4,602,745	102,745
事務所運営費	1,200,000	2,707,401	1,507,401
会計業務委託費	504,000	504,000	0
ハード・ソフト費用	950,000	657,754	△292,246
支部運営費	3,000,000	3,577,833	577,833
(支部助成金)	(1,300,000)	(1,384,000)	(84,000)
雑費	300,000	412,687	112,687
3 予備費	100,000	0	△100,000
4 減価償却費	600,000	517,742	△82,258
5 租税公課	0	0	0
当期支出合計 (B)	35,762,400	28,138,727	△7,623,673
当期収支差額 (A) - (B)	△8,331,900	△3,816,376	4,515,524
前期繰越収支差額 (C)	14,982,183	14,982,183	0
当期繰越収支差額(A)-(B)+(C)	6,650,283	11,165,807	4,515,524

*実績の入会金・会費収入には、未収入金 1,484,000円を含む。

*実績の支部運営費は 3,577,833円のうち 1,384,000円は支部助成金から支出している。


2. 平成21年度 監査報告

監査報告書

1. 特定非営利活動法人日本システム監査人協会における平成21年度（平成21年1月1日から平成21年12月31日）の事業予定・実績表、貸借対照表並びに財産目録は、関係諸帳簿、その他の関係書類を監査したところ、いずれも適正であり、また、公益法人会計基準に準じて正確に作成されたものであることを認めます。
2. 業務遂行に関しては、不正行為または法令もしくは定款に違反する事実は認められません。

平成22年1月30日

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

監事 富山 伸夫 

監事 中尾 宏 

平成22年度 事業計画（案）

I. 本部

1. 全般

20周年を経た協会が、今後さらに躍進していくためには、どうすべきか。組織面、事業面で、従来の活動以外に展開しなければならないことは何か。高い経済成長率は望めない成熟産業社会の中で、システム監査人として、どう処していくべきか。

むずかしい状況は続くが、知恵、力をあわせて道を切り開いていきたいと考える。

- ・ 「これからの10年」提言活動の集約
- ・ 公認システム監査人制度の充実とCSAの知名度向上
- ・ 新規事業開拓の検討

（1）「これからの10年」提言活動の集約

- ・ すでに議論されている論点を集約し、報告をまとめる
- ・ 提言に関連する次期活動の検討

（2）公認システム監査人認定制度の充実とCSAの知名度向上

- ・ 公認システム監査人等の相互交流と利用活性化のためにCSA（ASA含む）認定取得者を対象にCSAフォーラムを隔月に開催
- ・ CSAパンフレットや入札条件への資格明記等による知名度向上
- ・ CSA（ASA含む）申請の募集と継続教育セミナーの実施

（3）新規事業開拓の検討

- ・ 各部会、支部で試行されているセミナー定着の検討
- ・ 組織横断的チームによる新規事業の検討

2. 教育研修委員会

本年度も前年同様、特別講習認定機関に認定コースを委託により実施する。

(1) 論文・プレゼンテーションコース（1日コース）

実施回数予定： 東京 6回、大阪 2回 計 8回
実施時期予定： 1月～6月 4回、7月～12月 4回
受講者予定： 20名

(2) システム監査に関する知識コース（2日コース）

実施回数予定： 東京 6回、大阪2回 計8回
実施時期予定： 1月～6月 4回、7月～12月 4回
受講者予定： 20名

(3) 情報システムに関する知識コース

実施回数予定： 東京1回、大阪1回 計2回
実施時期予定： 1月～6月 1回、7月～12月 1回
受講者予定： 6名

(4) コース運営管理について

委託機関に対して、講習後の試験が再提出のない様に、評価を行うことを指導する。

保管ファイルの整理を行い、過去の情報をデジタル保管とする。

情報処理試験制度の変更に伴う特別講習認定についての見直しを行う。

3. 会報

(1) 今後の活動計画

①電子化に伴い、発行回数の増加を予定しています。

気軽にエッセイやレポートを投稿できる環境を用意して、会員各位が積極的に投稿いただけるよう期待しています。

定例テーマは、従来通り理事会議事、月例研究会、事例研修会、内部統制研修会の報告。支部の活動報告。CSA 活動報告など。

②実務に有益な会報を目指し、活動報告と掲載論文の募集を継続します。

③電子化した会報の一部は、監査に関心を持つ人への広報誌として情報発信が出来るよう環境整備を行います。

どのような形式であれば円滑な情報交換や意見の吸収ができるか、引き続き試行します。(例：CSA コラム、軽いエッセイ風の記事編集)

(2) 2010 年会報の特集計画

2010 年には、経済低迷期にこそ監査を通じた業務効率の向上を支援するシステム監査人、公認システム監査人の活躍の状況を編集していく見込みです。

(3) 会報の発行回数について

2010 年は、電子化した会報の発行回数を増やして、月次化を試行したい。

印刷した会報誌の発行は、経費（印刷、送料）の節減を図るため、従来の 6 回から年 2 回程度への削減を予定している。

4. 月例研究会

(1) 月例研究会の開催回数について

平成 21 年度は年間 8 回の研究会を開催した。

平成 22 年度も年間 8 回から 9 回の開催を予定したい。

(2) 各回のテーマ／講師について

- ・引続き会員の興味を引く、鮮度のよいテーマの選定に努めたい。
- ・また、分野については特定分野に偏らずバランスよく選定していきたい。
- ・講師については、今年度も官公庁、諸団体、民間、大学教員及び当協会関係者等のバランスを考慮していきたい。

5. 法人部会

(1) 会員の拡大

- ・平成21年は法人正会員が2団体増加した。引き続き、法人正会員の増強に向けた活動を行う。具体的には、システム監査企業台帳登録企業をはじめ、システム監査に係わりの深い企業に対しての入会案内の送付を行う。
- ・法人部会、さらには当協会の活動成果のアピールが会員の増強につながるので、活動の充実を図っていく。

(2) 情報セキュリティセミナーの企画・実施

- ・平成21年は、セミナー講師派遣の照会が数件あったが、諸処の理由により、実施には至らなかった。
- ・SAAJの知名度向上にも意義のある活動であり、セミナーの内容の充実、実施事例のアピールなどによって、さらに広報を行い、実績を上げたい。DMおよびWebサイトでの案内に加えて、新たな案内方法を検討していきたい。

(3) 会員同士の情報交換

次のようなテーマで、会員企業同士で意見交換を行っていく。

- ・システム監査のビジネス化
- ・システム監査を取り巻く状況；当面は、BCP（事業継続計画）をテーマに情報・意見交換を行っていく。

(4) 定例部会

- ・月1回開催する。

6. CSA利用推進

(1) 今後の活動計画

- ・CSAのプレゼンスと社会的な評価や価値を高め、具体的な実効を挙げることが目標とする。2008年に立ち上げたCSAフォーラムを引き続き隔月開催し、CSAの方々をうまく巻き込んだ実践的な取り組みを推進する。
- ・利用推進担当理事と支援メンバーを主体にした会合も隔月開催し、CSA認定カード、CSAパンフレット、入札条件への資格記載の依頼等に対する普及フォローも今後は強化する。
- ・さらに一昨年大幅リニューアルしたCSA関連サイトの内容充実を図り、ホームページの活性化を目指す。ホームページの活性化により、CSAフォーラムに参加できない方々の相互研鑽と情報共有の場の充実を図りたい。
- ・CSAを広く社会に知ってもらうためにCSAに関係した実務書の出版も複数の筆者を募りながら検討を開始する。
- ・活動は担当理事と支援メンバーによる会合を隔月開催し、またCSAの方々から意見や要望を受ける場や新たな支援メンバーを募集する。
- ・会報、HP、メーリングリスト、月例会等の活用については、会報、HP&メーリングリスト、月例会等の担当理事、CSA認定委員会、SAAJ事務局等との連携を取って進めていく。

(2) 今後の課題

- ・昨年度までの活動によりCSA同士の交流は広がったが、CSA利用推進の活動を幅広くSAAJ会員に知ってもらうことと、世の中に対してCSAのプレゼンスを高める実効は、まだ推進途上である。次年度は、隔月開催のCSAフォーラムの充実を図るだけでなく、SAAJ外部に対する活動を再度見直して活性化する施策を展開したい。そのためにより多くのCSAの方々との連携・協力体制作りを進めたい。
- ・20周年プロジェクトでの検討課題である「システム監査人の役割、要求されるスキルなどの見解のまとめ」について、“CSAフォーラム”における検討テーマとして取り上げ、取り組みを進める。情報処理技術者試験等において期待されるシステム監査人としての役割、スキルを整理した上で、より高度なシステム監査人について進むべき人材像の明確化と具体的な育成策の提示を目指していく。

7. システム監査事例研究会

(1) システム監査サービス

協会ホームページで監査の受診希望企業・団体を募集する。受診企業側で時間外・休日の監査対応が難しくなりつつあるが、メンバーのスキル向上を図るため、積極的に対応する。

(2) システム監査実務・実践セミナー

公認システム監査人制度の教育制度の一環として、昨年同様システム監査実務セミナー4日間コースを2回開催したい。監査サービス実施結果に基づき新教材の開発を行い、システム監査未経験の会員及び公認システム監査人補にシステム監査実務を経験する機会を提供していきたい。

具体的な開催計画は、以下の通り。

① 15回システム監査実務セミナー4日間コース

2010年1月16日(土)、17日(日)、30日(土)、31日(日)

(於：千葉市幕張)

② 第16回システム監査実務セミナー4日間コース

9月開催予定(於：千葉市幕張)

(3) システム監査新開発セミナー(仮称)

昨年1回実施した新開発セミナーの教訓を踏まえ、事例の追加収集と教材の充実を図り、3月までに1日コースと半日コースを開発する。

4月以降、各支部を回って出張セミナーを開催するとともに、一般向けの集合セミナー(半日コースまたは1日コース)の開催を計画する。

(4) 内部統制セミナー

事例研独自の教材の強みを活かし、本年は企業における内部統制監査に対するニーズを的確に把握し、募集・催行を決定していきたい。

・内部統制セミナー3日間コース(於：御茶ノ水総評会館)開催予定。

(5) システム監査事例研究会からの情報発信

SAAJのホームページ上に、事例研究会の活動状況及び活動実績を広報、宣伝するために、継続的に情報発信を行なうこととしたい。

(6) 月例会の活性化

毎月開催している月例会において、既存会員の参加率を高めたり、新入会員の入会を促進する取り組みを強化したい。具体的には、メンバーの知識や経験を共有できるような運営を目指す。

8. 情報セキュリティ監査研究会

(1) 活動計画 (継続)

平成21年度には計画した成果まで至ることが出来なかったため、引き続きその延長になる次の検討を進める。

『情報セキュリティ監査のためのリスクの洗出し
およびその分析、監査における監査ツールの利用』の一般化、普及

(2) 平成22年度研究会研究項目

- ①情報セキュリティ監査基準の監査に関する情報・ノウハウの共有
 - ②情報セキュリティ監査基準を利用する「基準ツール」の充実を図る
- 成果としては、「リスクの洗出しおよびその分析、監査ツールの利用」について一般の方々（＝当協会に所属していないなど専門家で無いの方々）を意識した分かりやすい、使いやすい形でまとめることにしたい。

(3) 展開方法 (案)

リスクの洗出しモデルをツール上に展開する。Wiki サーバにおいた閲覧ツールを継続して利用し、このツール上にリスク要因とそれに関わる対策を情報セキュリティ監査結果を参考にして、JISQ27001（*1）と関連付けるものとする。リスクの洗い出しとその対応方法を資料化する。

（*1）JISQ27001：情報技術—セキュリティ技術—情報セキュリティマネジメントシステム—要求事項

9. システム監査基準研究会

(1) 研究項目

- ① SAAJ システム管理基準体系

(2) 研究会項目

1) 各種開発環境・手法における監査のポイント

- ① 「システム管理基準 for オフショア」について、パブコメを反映させた最終版を確定させる。
- ② 「Web システムにおける監査のポイント」(開発・利用)
研究会内のレビュー後、HP 上に公開しパブコメを募集する。
- ③ 「BCMにおける監査のポイント」
研究会内のレビュー後、HP 上に公開しパブコメを募集する。
- ④ 「プロジェクトマネジメント監査のポイント」
原案を作成し、研究会内のレビュー後、HP 上に公開しパブコメを募集する。
- ⑤ 「パッケージ導入における監査のポイント」
原案を作成する。

2) システム監査の視点の整理 (特に有効性)

「目的適合性に関する監査の着眼点」と「投資対効果に関する監査の着眼点」をブレークダウンし、チェックリスト等の原案を作成する。

3) COBIT4.1 とシステム管理基準のマッピング作業の作成

引き続き原案作成する。

以上の成果が揃ったところで、全体をとりまとめた成果物も検討していきたい。

(3) 定例研究会

- ・ 定例研究会は、原則月 1 回開催する。

10. 個人情報保護監査研究会

システム監査人の活動分野の一つとしてプライバシーマーク審査員として活躍される方が増加しており、またプライバシーマーク審査員として活躍されている方がよりよい審査技術向上のためにSAAJに入会されてこられている。個人情報保護研究会はこれらの会員の方々の研究と実践を推進する活動を目指し、今年度は「個人情報保護監査の実施に関する研究」をテーマに取り組みたい。

II. 北海道支部

1. 定例研究会・勉強会実施

研究会は、テーマを決めて隔月で実施する。基本的に支部員が持ち回りで講師を務める。また、本部より送付される月例会のビデオテープを上映する勉強会を隔月で実施する

2. 講演会の実施

年に1度、外部より講師を招いて講演会を実施、広く一般に公開する。他団体との共催により聴衆を増やし知名度を高めるとともに、広く交流を図る

3. システム監査の実践

北海道でのシステム監査普及サービスを試行する。また北海道でのシステム監査ビジネスの普及に向けての調査を行う

4. 広報

支部活動について対外的な広報、および支部員勧誘を行う。
対外的な広報に関しては、協会のホームページの北海道支部のコーナーを充実させる

5. メーリングリストによる連絡

支部メーリングリストにより、支部員間の連絡および情報交換を行う

6. 支部体制

支部長	大館広之
副支部長	渡部洋子、五十嵐洋介
会計	谷口泰正
監事	小柳政行
研究会担当	小林弘幸、本多鉄兵
ML担当	渡部洋子（兼任）
広報担当	福西伸康

Ⅲ. 東北支部

1. 月例研究会

- ・メーリングによる参加を考慮した定例会を2ヶ月に1回程度開催する。
- ・毎回、会員による活動事例発表、情報交換及び勉強会を行う。
- ・開催場所は仙台市の他、各県での開催を検討しつつ運営する。
3月6日（土）福島、4月17日（土）仙台、6月26日（土）山形、
8月21日（土）仙台、10月後半仙台（ワークショップ終了後に実施）、
- ・なお、毎年1月に実施してきた定期総会を第9期総会より12月に開催する。
第9期総会は、12月18日（土）仙台市内にて開催する。

2. 広報活動

- ・経済産業省推進プロジェクトである「東北IT経営応援隊」、各県のITコーディネータ組織、日本システムアナリスト協会東北支部との連携を図り、当協会東北支部の広報宣伝活動を強化する。
- ・協会ホームページの支部便りを活用し、特に、東北支部地域へのシステム監査に関する情報の発信を行う。

3. 会員増強

- ・公認システム監査人の特別講習受講対象資格保持者から公認システム監査人（補）の資格取得促進を図るため、仙台市での特別認定講習実施に向け活動する。
- ・上記受講を終了し、公認システム監査人（補）の資格取得した者、および情報処理試験（システム監査技術者）合格者などを対象に会員加入を推進する。

4. システム監査普及サービスの実施

- ・今年度は、更に会員がシステム監査を体験できるように、システム監査普及サービス対象企業を募り、事例研究会と共同開催を目指す。

5. ワークショップの開催

- ・ITCみやぎ及び日本システムアナリスト協会東北支部と共催しているワークショップを本年度も10月後半仙台市内にて開催する。

IV. 北信越支部

1. 本年度の目標

支部会員の能力向上と支部の技術基盤向上を目指します。

- ・ 研究チーム継続によるシステム監査の技術基盤の向上。
- ・ 本部、他支部との交流による知識、技術力の向上。
- ・ プレゼンテーション能力の向上。
- ・ インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上。

2. 活動計画

- ・ 3月13日 年度総会（富山）
- ・ 6月12日 福井県例会
- ・ 9月予定 西日本支部研究会
- ・ 10月 2日 長野県例会
- ・ 12月11日 石川県例会

3. 支部役員改正案

支部長 宮本茂明（石川）、副支部長 白井正（新潟）、梶川明美（富山）

会計 坂井敏之（富山）、情報統括 清水尚志（石川）

顧問 伊藤祐太郎（富山）、森広志（富山）

県部会長 角屋典一（福井）、木村武志（石川）、國谷吉英（富山）、

風間一人（新潟）、藤原康弘（長野）

書記 尾島純子（富山）、監事 高瀬清春（富山）

V. 中部支部

1. 活動方針

- ・中部支部内会員、およびの継続的な相互研鑽・交流を図る。
- ・中部支部以外の地域や団体との人材交流を積極的に展開していく。

2. 活動体制(敬称略)

支部長	:	田中 勝弘
副支部長	:	栗山 孝祐(新任)
副支部長	:	杉山 浩一(月例会担当)
会計担当	:	早川 晃由
会計監査	:	山田 和夫
顧問・監事	:	若原 達朗

3. 活動内容

- (1) 例会(奇数月の土曜日)
 - (2) 合宿(11月又は9月の土日)(西日本合同研究会と同時開催を検討)
 - (3) 西日本合同研究会(幹事)
 - (4) その他
- ・メーリングリスト等を通じた会員の相互交流、情報提供
 - ・中国との交流

VI. 近畿支部

1. 活動方針

- ・本年度は、2008年度の支部20周年記念行事を契機として、活性化してきた支部活動を更に充実させる。
- ・役員体制を整備し、活動基盤を強固にする。

2. 支部体制（敬称略）

（7）支部役員

支部長 吉田 博一
副支部長 藤野 正純 関西 康一郎
会計担当 片岡 学
入門セミナー担当 三橋 潤
コンプライアンスのシステム監査研究会(仮称)担当 雑賀 努
システム監査法制化研究会(仮称)担当 田淵 隆明
支部サイトWG担当 金子 力造
監事 福德 泰司

（8）参与

木村 安寿、中谷 正明、安本 哲之助

（9）サポーター

三橋、林、大塚(豊)、雑賀、荒町、金子、田淵、是松、中谷、小宮、寺下、岡谷、鈴木、松井、福德、神尾、広瀬、伊藤、深田、後藤(順不同)などのサポーター各位の協力を得て、支部活動を行います。

3. 定例研究会活動

- ・従来同様、隔月（奇数月の第3金曜日）にて年間6回開催する計画である。
- ・講師の選定等については、当協会会員を中心にリクエストに応じてお願いする。

4. システム監査勉強会

- ・本部定例研究会のビデオによる勉強会で、平成17年度より実施した。
- ・定例研究会の開催されない月（偶数月の第3土曜日）で、年間6回予定。

5. セミナー活動

（1）システム監査実践セミナー

中小企業のシステム監査の模擬監査として、6月開催予定で、実践セミナー担当役員を中心に計画する。

(2) システム監査入門セミナー

昨年に引き続き、半日コースのシステム監査の入門研修を行う。入門セミナー担当役員を中心に計画する。

(3) コンプライアンスのシステム監査研究会(仮称)

20周年+1公開シンポジウムや西日本支部合同研究会でのコンプライアンス問題について、システム監査学会と合同で開催の予定。コンプライアンスのシステム監査研究会担当役員を中心に計画する。

(4) システム監査法制化研究会(仮称)

システム監査の法制化に向けて、検討を進める。システム監査法制化研究会担当役員を中心に計画する。

6. システム監査普及サービス

- ・システム監査の普及と実践例の蓄積のために、積極的な広報活動と体制整備につとめる。

7. 支部運営体制について

①円滑な支部運営

支部役員の体制を強化し、サポーターと連携して、支部運営を行う。

②支部サイトの活用

支部サイトを活用し、各種活動を支援する。支部サイトWGを作り、検討する。

Ⅶ. 中四国支部

1. 活動方針

- ・中四国支部会員の継続的な研鑽と情報交換の場を提供する。
- ・中四国地域で唯一のシステム監査人の団体として、システム監査に関わる窓口組織となるように広報等の知名度向上に努める。

2. 活動計画

(1) 月例会の開催（原則月 1 回）

- ・月例研究会のビデオ視聴
- ・その他、情報交換

(2) 他支部、他団体との連携

- ・地域 IT コーディネータ組織等とのイベント共催等
- ・西日本合同研究会への参加勧奨

3. 役員体制

支部長：溝下 博

副支部長：福田陽一、福原博明

会計：清野敏弘

監 事：池田光孝

顧問：大谷完次

VIII. 九州支部

1. 活動計画

- (1) 月例会の開催 原則月 1 回の月例会を継続する。
 - ・参加者が発表しやすい企画。
 - ・年 1～2 回程度の外部講師による講演の企画。
 - ・システム監査学会九州地区研究会および ISACA 福岡支部（設立予定）との連携
- (2) 他支部、他団体との合同企画・開催。
 - ・西日本支部合同研究会への参加
2010 年度は中部支部主催で開催予定。
 - ・福岡 ITC 推進協議会はじめ九州各県の ITC 組織、日本システムアナリスト協会九州支部等の関連団体とのイベント共催の推進する。
- (3) 関連他団体との連携、情報発信の活発化
 - ・関連団体主催のイベントへの後援などを通じ連携を深めるとともに、当協会の紹介などを活発に行う。
- (4) メーリングリストによる情報・意見交換の一層の活発化
- (5) 情報発信、広報活動の活性化
 - ・支部の活動計画、実績をホームページを中心に発信、広報に努める。
- (6) その他、支部活動整備
 - ・支部会員名簿の整備を進める。

2. 役員体制

支部長	中溝統明
副支部長	船津 宏 荒添美穂
会計	居倉圭司
監査	松嶋 敦
事務局	福田啓二
地区担当	長崎 平山克己
	大分 藤平 実
	鹿児島 山下博美
	熊本 桐原光洋

平成22年度 予算 (案)

平成22年度 特定非営利活動に係る事業会計 事業予算科目案

平成22年1月1日から平成22年12月31日まで

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

(単位：円)

科 目	(細目)	備 考
I 収入の部		
1 入会金・会費収入	10,100,000	
入会金収入	100,000	
会費収入	10,000,000	
2 事業収入	10,557,500	
普及・啓発、広報事業	0	
研究・研修事業	7,827,500	月例会、セミナー、研究会等
システム監査人の認定事業	2,730,000	認定料、登録料、更新料
3 寄付金収入	0	
4 その他収入	1,932,856	
支部収入	1,732,856	支部研修会収入等
雑収入	200,000	受取利息等
当期収入合計(A)	22,590,356	
II 支出の部		
1 事業費	12,546,570	
普及・啓発、広報事業費	3,707,000	会報、パンフ、ホームページ等
研究・研修事業費	6,839,570	各研究会、セミナー講師料等
システム監査人の認定事業費	2,000,000	認定員手当、認定票作成費
2 管理費	12,258,020	
通信費	220,000	
旅費交通費	800,000	
消耗品費	170,000	
会議費	600,000	総会費、理事会費
事務局手当	3,100,000	
事務所運営費	2,800,000	事務所賃貸料
会計業務委託費	504,000	
ハード・ソフト費用	457,520	
支部運営費	3,206,500	支部研修会費用等
(支部助成金)	(1,323,000)	
雑費	400,000	
3 予備費	0	
4 減価償却費	400,000	
5 租税公課	0	
当期支出合計(B)	25,204,590	
当期収支差額(A)－(B)	△2,614,234	
前期繰越収支差額(C)	11,165,807	
当期繰越収支差額(A)－(B)＋(C)	8,551,573	

平成22年度 役員選任

第9期 役員候補者名簿

支部／地域	協会役員	氏名	勤務先名	
関東	理事	安部 晃生	中央三井信託銀行(株)	新任
関東	理事	岩崎 昭一	データリンクス(株)	
関東	理事	榎本 吉伸	YEシステムコンサルティング事務所	
関東	理事	遠藤 誠	あずさ監査法人 IT 監査部	
関東	理事	大石 正人	日本銀行	
関東	理事	小野 修一	(有) ビジネス情報コンサルティング	
関東	理事	片岡 学	あらた監査法人	
関東	理事	金子 長男	金子システム監査	
関東	理事	川端 純一	敦賀市役所	新任
関東	理事	木村 裕一	(財) 日本情報処理開発協会	
関東	理事	斎藤 茂雄	(株)日立情報システムズ	
関東	理事	斎藤 由紀子	プライバシーマーク主任審査員	新任
関東	理事	桜井 由美子	EyeBeyond	
関東	理事	佐竹 博利	(株)日本システムディベロップメント	
関東	理事	島田 裕次	東京ガス(株)監査部	
関東	理事	清水 恵子	中央青山監査法人	新任
関東	理事	鈴木 信夫	(有) エイビーシー	
関東	理事	鈴木 実	鈴木アイ・ティ・シー	
関東	理事	成 楽秀	サンノックシステム株式会社	
関東	理事	竹下 和孝	んじゃろ監査事務所	
関東	理事	力 利則	日本電気(株)	
関東	理事	仲 厚吉	セコムトラストネット(株)	
関東	理事	中山 孝明	国家公務員	
関東	理事	沼野 伸生	沼野 Associates	
関東	理事	馬場 孝悦	公認システム監査人	
関東	理事	原 純江	日本ビジネスコンピューター(株)	
関東	理事	松枝 憲司	(株)ビジネスソリューション	
関東	理事	三谷 慶一郎	(株)NTT データ経営研究所	
関東	理事	三輪 智哉	(株)網屋	新任
関東	理事	山田 隆	日本規格総合研究所	
北海道	理事	大館 広之	NTTコムウェア北海道株式会社	
東北	理事	高橋 典子	(株)富士通東北システム	
北信越	理事	宮本 茂明	(株)富士通北陸システムズ	新任
中部	理事	栗山 孝祐	(株)富士通中部システムズ	新任
中部	理事	田中 勝弘	(株)シーティーアイ	
近畿	理事	関西 康一郎	公認システム監査人	
近畿	理事	藤野 正純	公認会計士藤野正純事務所	
近畿	理事	吉田 博一	大阪府	
中四国	理事	溝下 博	あずさ監査法人	
九州	理事	中溝 統明	富士通エフサス	新任
関東	監事	富山 伸夫	富山システム監査事務所	
関東	監事	中尾 宏	東京情報大学 総合情報学部	

「システム監査これからの10年」10の提言への対応状況と今後の取組み計画

●平成21年（2009年）の活動状況

- (1) 10の提言それぞれに設定した、対応の主担当理事を中心に、活動を行った。
- (2) 主担当を中心に、それぞれの提言への対応に必要な情報収集を行った。
- (3) 主担当を中心に、それぞれの提言への対応の論点整理、考え方、対応策のまとめを行った。
- (4) その中で、具体的な取組みに移せるものについては、順次、実施した。
- (5) 月1回程度、主担当理事で集まって（対応チーム）、情報・意見交換を行った。
- (6) それぞれの提言および対応検討の論点、考え方に対して、外部有識者の意見を聞くことを目的に、以下の場をもった。
 - ・情報セキュリティ監査協会（JASA）顧問、工学院大学教授大木栄二郎先生との意見交換の場（5月）
 - ・経済産業省商務情報政策局情報セキュリティ対策室三角育生室長、井土和志課長補佐との意見交換の場（7月）
- (7) 3つの提言（項番2、4、5）について、対応検討の論点、考え方に対して、会員の皆さんの意見を聞くことを目的に、討議会を開催した（12月）。
- (8) (5)(6)で出された意見を、それぞれの提言についての対応検討の論点、考え方に反映させた。

●平成22年（2010年）活動計画

- ・多くの提言が容易に結論が出せるものではないが、平成21年の整理・まとめを受けて、平成22年はより具体的な検討を行っていく。
- ・特に、会員の皆さんとの討議会は非常に有意義であり、平成22年度も何回か開催したいと考えている。
- ・実施に移せるものについては、順次、実施していく。具体的な施策に展開できたものについては、会報やWebサイトなどを利用して公表していく。

以下の報告内容は、主担当理事を中心に進めてきた、それぞれの提言についての対応状況の報告と、今後の取組み計画である。

●10の提言についての報告

提言	取組み状況	今後の取組み計画
<p>1. システム管理者および若い世代に目を向けた取組みの推進</p>	<p>①会報とタイアップして、新しい分野でのシステム監査の状況を調査した。また広く会員にも参加者を募り、監査を業務としない人との交流のあり方を検討した。</p> <p>②インパクトのある情報公開の手段に最新技術を応用するため、動画、Twitter、Blogなどを情報発信源として利用できないか調査した。</p> <p>③動画で SAAJ の活動を紹介する方法の検証を行った（ツール、サービス）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を活用した情報発信のため、予算を確保して、試行、運用する ・技術としては、Blog サイト、動画サイト、Twitter との連携を計画する ・プロトタイプを作成し、理事の皆さんの意見を反映させた後、Web サイトに公表していく予定である。
<p>2. 経営マネジメントシステムの枠組みへのシステム監査の組み込み</p>	<p>①「システム監査という言葉だけでは今後は経営者を引きつけられない。経営の一要素としてシステム監査を位置づける必要がある。そのためには何を行う必要があるのか」という問題意識の下、チームメンバーでのディスカッションを行った。</p> <p>②中四国支部月例会（2009.5.16）、月例研究会（2009.11.9）の場においても、システム監査人がいかにして経営に接近するか、というテーマについて問題提起を行った。</p> <p>③提言に関する討議会（2009.12.1）において、会員参加によるディスカッションを実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2010 年も、引き続き基礎的検討を進める。 ・特に、12 月に実施したようなオープンな場での会員間のディスカッションは、様々な立場からの意見を得るためにとっても有意義だと考える。継続して実施していきたい。 ・また、何らかの形で企業経営者へのアピールや意見交換を行うことも検討したい。
<p>3. システム監査と情報セキュリティ監査の関連・違いの明確化</p>	<p>①Q&A 形式の資料にまとめ、チームメンバーで何回か、検討を行った。</p> <p>②外部有識者との意見交換の場にも提示し、外部有識者の目での貴重なご意見を伺った。</p> <p>③ある程度、内容が固まったと考え、理事の皆さんに公表し、意見を伺った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理事の皆さんの意見を反映させた後、Web サイトに公表する予定である。
<p>4. システム監査の法制化、制度化のあり方の検討</p>	<p>①システム監査の今後の機能とあり方を検討した。</p> <p>②上記①に基づき、現状制度としてどのようなものがあるかを想定した。</p> <p>③上記②の阻害要因等が何かを分析した。</p> <p>④上記③を排除する方策を検討し、制度化推進策を「提言」案としてまとめた。</p> <p>⑤上記④の「提言」案について、会員有志による</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「提言」を協会内に発表する。 ・「提言」を協会外に公表する。 ・他の提言と合わせて、所管当局へ説明し、提言案の実現性を打診する。 ・「提言」について、関係団体とのディスカッションを実施し、実現性の方向を探る。

	ディカッションを実施した。	
提言	取組み状況	今後の取組み計画
5. 保証型監査についての見解の明確化と公表	<p>2009年は、基礎的検討として主に以下を実施した。</p> <p>①経済産業省「情報セキュリティ監査報告書」(2003.3.26)等を基に、情報セキュリティ監査における「保証型監査」「助言型監査」の定義確認、検討。</p> <p>②経済産業省「システム監査基準」(2004.10.8)により、システム監査基準においても「保証」、「助言」の考え方が導入されていることを確認。</p> <p>③JASAによる「保証型監査」「助言型監査」の研究成果を公表資料で確認、検討。</p> <p>また、JASAの保証型監査促進プロジェクトをリードされている工学院大学大木先生とのディスカッションも行った。</p> <p>④金融庁、公認会計士協会における「保証業務」に関する各種公表資料を入手、検討。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年は引続き基礎的検討を進めるが、2009年からの基礎的検討の結果を踏まえ、システム監査における「保証型」「助言型」の考え方の叩き台を纏めたい。 ・叩き台の取り纏めに当たっては、会計監査の分野で蓄積された監査の知見を十分参考にすが、会計監査とシステム監査との違い(情報システムの特性など)にも十分注意を払っていく。 ・システム監査のこれからの10年を見据えたテーマであり、拙速な検討でなく、引続きじっくり検討を進める。(2、3年の中期検討計画の繰り返しで、都度途中経過を公表しながら成果を積み上げていく。)
6. システム監査基準を有効活用するための情報提供機能の強化	<p>①「システム管理基準 for オフショア開発」について、協会HP上で会員および一般よりパブリックコメントを募集した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年は「システム管理基準 for Webシステム開発(仮称)」「システム管理基準 for BCM」「システム管理基準 for PM」等をシステム監査基準研究会内のレビュー&修正後、当協会Webサイト上に公開する計画である。
7. システム管理基準のシステム現場への普及	<p>①J-SOX対応以外において、システム管理基準を普及させるために、COBIT 4.1とシステム管理基準のマッピング作業を行っている。</p> <p>②その他、システム監査基準研究会のこれまでの検討の中で、次のような意見が出ている。</p> <p>システム管理基準を活用した事例の提供 他の団体(令:IT経営協議会、ベンダー/ユーザー団体等)への働きかけも重要</p> <p>③他団体との連携の一つとして、日本セキュリティ監査協会の要職を務められている方との意見交換を、2009年5月に実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・COBIT 4.1とシステム管理基準のマッピングを完成させる。 ・その他、システム監査基準研究会内で検討を深めたうえで行動に繋げたい。
8. システム監査の視点の整理、特に有効性	<p>①各団体等では出されている見解を収集・整理した。</p> <p>②「有効性」については、「投資対効果」と「目的達成度」の両面から評価する方式で検討を進めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「有効性」の評価について、システム監査基準研究会として検討を進めていく。

提言	取組み状況	今後の取組み計画
<p>9. システム 監査人の人 材像の明確 化と育成策 の提示</p>	<p>①継続してきた取組みは次の2点である。</p> <p>1. システム監査人の役割、要求されるスキル、スキル育成等の検討と見解をまとめる。</p> <p>2. 公認システム監査人（CSA）制度と CSA 認定取得者の価値を高める CSA 利用推進の目的・位置づけの明確化と具体的な推進活動。</p> <p>②2009 年は特に 2. CSA 利用推進活動に注力し、CSA 認定取得者の相互研鑽、情報共有、フェイス TO フェイスの意見交換の場として、“CSA フォーラム”を2ヶ月に1回（計5回）開催した。CSA（ASA 含む）フォーラム事前登録者約百数十名に案内を出し、毎回20名強の出席者が集まり情報共有、意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/27 第3回「CSA 実践報告&基準研紹介」（松枝憲司氏報告） ・3/5 第4回「内部監査から見たシステム監査」（島田祐次氏報告） ・6/1 第5回「組織人を幸せにするマネジメントシステムを目指して」（桜井由美子氏報告） ・7/23 第6回「システム監査の実践を通してのCIOの役割・課題への貢献」（小野修一氏報告） ・9/24 第7回「オフショア開発成功のためのシステム監査」（山田隆氏報告） ・12/2 第8回「今までの振り返りと今後の予定」（CSA フォーラム事務局） 	<ul style="list-style-type: none"> ・2010 年は、1. システム監査人の役割、要求されるスキルなどのまとめを、“CSA フォーラム”の検討テーマとして取り上げ、取組みを進める。また、情報処理試験等において期待されるシステム監査人としての役割、スキルを整理した上で、関連団体とも連携を図り、より高度なシステム監査人の進むべき人材像の明確化と具体的な育成策の提示を目指していく。 ・CSA フォーラムは引続き2ヶ月に一度ペースで開催していく。徐々に意見交換やディスカッションの時間を増やし、相互啓発、研鑽の向上を図る。さらに具体的に CSA 制度と CSA 認定取得者の価値を高めるための議論、提言、成功事例の紹介等の活動を行っていく。併せて CSA 同士の相互交流の場を通して、監査人が連携を図りやすい体制作りを進める。
<p>10. 当協会と 関 連 官 庁・機関・ 団体との 連携強化</p>	<p>①渉外担当理事を中心に、場面をとらえて、積極的な交流を図り、連携チャンネルを深めることに努めている。</p> <p>②当協会が主催するイベントへの招待、他団体からの招待への対応など、可能な限り連携の場を作っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、各提言に関する対応検討の状況と必要に応じ、関係諸団体との意見交換などを行っていく。